

2月の県内景況は、「売上高」等の項目が改善したが、依然厳しい業種が残る。

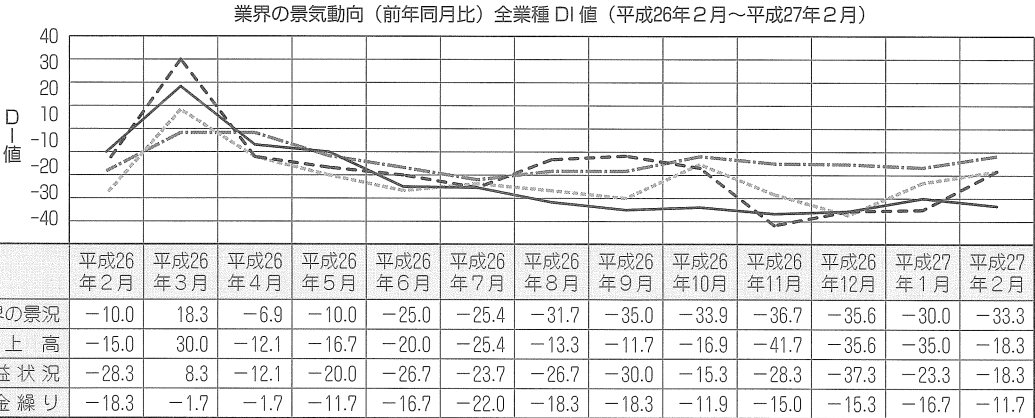
情報連絡員による平成27年2月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は16.7%（前月比+1.7）となっており、「横這い」は38.3%（同+5.0）、「低調」とするところが45.0%（同-6.7）、業界全体の「景況感 DI」は-28.3（同+8.4）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比 DI 値の動き
◇「売上高」「在庫数量」「収益状況」「資金繰り」の項目において前月と比較して改善しています。
2. 業種別の「業界の景況」
◇前年同月と比較して、建設業は「晴れ」、繊維製品製造業、鉄工機械製造業、その他製造業、卸売業、小売業は「曇り」または「薄曇」、その他の業種は「大雨」または「雨」となっています。
- ◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が30.0%（前月比+18.3）と増加しております（好転の回答1件、やや好転の回答17件）（製造業9、非製造業9）。また、変わらないが、51.7%（前月比-1.6）と減少しております。やや悪化、悪化の見込みは、18.3%（前月比-16.7）と減少しております。
- 平成27年2月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率100%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食料品製造		-42.86		-42.86		0.00		28.57		-57.14		-42.86
繊維製品製造		66.67		66.67		0.00		33.33		0.00		0.00
木材木製品製造		-25.00		-100.00		-50.00		-50.00		-100.00		-25.00
鉄工機械製造		0.00		-40.00		0.00		20.00		0.00		0.00
その他の製造		28.57		0.00		-14.29		14.29		-14.29		-14.29
卸売業		0.00		25.00		25.00		25.00		-25.00		-25.00
小売業		22.22		-11.11		22.22		-22.22		22.22		-11.11
商店街		-16.67		-33.33		-16.67		-16.67		-16.67		-16.67
サービス業		-14.29		-57.14		14.29		28.57		-14.29		-42.86
建設業		20.00		60.00		0.00		20.00		0.00		20.00
運輸業		-33.33		-33.33		0.00		33.33		-33.33		-33.33

天気図の見方
各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値（D・I値）をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値	
	快晴 30以上
	はれ 10～30未満
	うすぐもり -10～10未満
	くもり -30～-10未満
	雨 -50～-30未満
	大雨 -50未満



食料品製造業

<漬物>

1月、2月より3月は食欲が旺盛になり、漬物の売れ行きは良くなる。しかし全体的な漬物業界の動きは大変厳しいものがある。また、円安等による原材料の高騰は収益面で相当厳しく、会社の存続が今後問題になるものと思われる。

<味噌醤油>

主原料は依然として高値水準が続く、新年度より副材料、添加物等も値上げが実施される情報があり、出荷低迷が続く中、組合員の事業運営がますます厳しくなるのではと懸念している。また、風評被害はさらに深刻化している。

<乾麺>

中国の玄そばの値上げで、今年1月よりそば粉の大幅な値上げ（1kg60円～80円）があった。3月以降の需要期の製品原価が上がることは避けられない。長野県メーカーは昨年より値上げの発表をしているが、中小企業が多い乾麺メーカーでは値上げの発表が少ない。また、政府原価の改正（3%の値上げ）で小麦粉の値上げ（80～120円くらい）が6月ごろ予想される。円安は原材料の値上げで中小メーカーの収益を悪くしている。

<酒造>

前年、前月に比べても売上がダウンしている。吟醸、純米酒は伸びているが、それ以上に普通酒の落ちが目立つ。輸出は好調だが、一部風評被害も見られ、マスコミ報道の影響が大きい。

<食品団地>

原油の仕入価格は前月より下がったが、消費はまだ低迷しており、まだまだ厳しい状況である。今後は地産地消による県内消費を高めていくことを最優先で進めていかなければならない。

縫製品・同製品製造業

<ニット>

秋冬物が一段落して、春物の生産に入っているが受注状況が思わしくない。

<縫製品>

夏物の生産が本格化し、受注量も増加し稼働率も上がり売上也多少増加する傾向にある。販売価格の上昇がみられず、また人手不足の状況により収益を一段と好転させるためには力強さが欠ける。しかし今後の展開には希望が持てる。

木材・木製品製造業

<製材業>

2月は例年製材品の売れ行きが鈍い不需要期であるが、今年はここ数年にないほどさらに悪化しており、製品価格を安くすれば売れる状況ではない。このため原木丸太の荷動きは鈍くなっているが、出材は順調なことから、相場は1月に続き続落している。

<外材輸入>

春先に向け、不需要期であることに加え、昨年からの消費税増税の反動減が続いており、売上、販売価格等低迷した状況で推移している。

紙・紙加工品製造業

<紙器・段ボール>

後継者確保が困難な状況で、従業員の福利厚生・生活面の改善により技能、技術者の確保につなげること

が急務である。「若手のいない業界に明日はない」と言われているが、ぜひ若手の育つ業界になるべく努力している。2月期の売上高は例年通り低調に推移している。

印刷業

<印刷>

前年は消費税値上げ前の駆け込み需要があり、好況だった。今年に入り、売上は停滞している。

窯業・土石製品製造業

<陶磁器>

2月は団体の観光客が定期的に入ってきているので、少し活気づいている。

<碎石>

(県北地区)

1. 当月売上高の前月比 ± 0%
2. 当月売上高の昨年同月比 約28%の増
3. 今年度累計の昨年対比 約22%の増
4. 原因・状況 今年は降雪量が昨年より少なく、除染作業等の稼働日が多かった。

<生コン>

平成27年2月の組合員生コン出荷数量は、151,643㎡と対前年同月比14.3%の増。増加地区は東日本大震災等で被害を受けた道路、建物、港湾等復旧・復興工事が主たる要因。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比7.7%の増、官公需が26.2%の増であった。

■民需の動向

対前年同月比 7.7%の増

① 対前年同月比増加地区

<県北地区> 15.0%の増

JA新ふくしま集荷施設建設工事、老人ホーム建設工事等

<白河地区> 51.8%の増

工場・倉庫新築工事、トラックターミナル建設工事等

<いわき地区> 11.2%の増

いわき物流センター建設、工場増設工事、マンション新築工事等

<会津地区> 9.2%の増

会津中央病院増築工事、工場建設等

② 対前年同月比減少地区

<県中地区> 3.6%の減

マンション新築工事、須賀川病院建設工事、工場増築工事等

<相双地区> 9.0%の減

原発保安対策工事、常磐道舗装工事、広野火災消波ブロック工事等

■官公需の動向

対前年同月比 26.2%の増

① 対前年同月比増加地区

<県北地区> 6.1%の増

霊山トンネル、医療科学センターC・D棟新築工事、復興公営住宅工事等

<県中地区> 76.3%の増

郡山市中央公民館工事、環境創造センター、復興公営住宅建設工事等

<白河地区> 46.5%の増

白河中央中学校、新石川小学校、復興公営住宅建設工事等

<いわき地区> 3.8%の増

港湾災害復旧工事、復興公営住宅建設工事等

<相双地区> 51.7%の増

海岸保全施設整備工事、富岡町・浪江町減容化施設工事等

② 対前年同月比減少地区

<会津地区> 46.0%の減

道路整備工事、橋梁工事等容化施設工事等

鉄鋼・金属・一般機械製造業

<鉄工>

(県中地区)

ここにきて仕事量が少なくなっている。毎年2月～4月は少なくなる。大きな建物が少ないようだ。

<各種プラント機器>

当組合のプラント設備関連業界は、見積もり引き合いは前月同様横ばい傾向で推移しており、売上高においては前月比および前年同月比でやや減少となった。しかし、売上累計では前年比とほぼ同程度までに回復してきているので、今後に期待したい。

卸売業

<卸売業>

(県中地区)

卸商団地等インター周辺地域への進出を希望する企業が増えてきている。しかしながら既に埋まっており、なかなか土地の手当てができない状況。少しずつ値段が高い商材も売れ始まっており、デフレからの脱却が進んでいる感がある。ただし、中小企業組合員にとっては物価が上がるのに対応した賃金を支給することがまだ厳しい。卸団地については、まちづくり事業として取り組んできた、街路灯の更新工事と防犯カメラの設置工事が完了し、「安心安全の卸団地」としての環境整備が整った。

<再生資源>

2月の鉄スクラップ・非鉄の価格は下げ止まらず、今後も軟調推移のようである。古紙市場は、競合のため国内価格は維持しつつも、需要低下で今後は不安様相。輸出市況は下げ局面が続いている。発生減に歯止めがきかず、収入減が続いている。唯一明るい材料は、石油価格が下がり、燃料費の負担が軽減したことである。

小売業

<共同店舗>

(県中地区のOショッピングセンター)

2月は、昨年雪の影響で売上が落ちたため、本年度著しい伸びを示した。前月比では売上を落としたが、客数では伸びた。つるし雛展開催と新店舗開店による好影響があった。

(県中地区のNショッピングセンター)

昨年の消費税増税に伴う、駆け込み需要が前年2～3月にかけてあったことから、今年の売上が昨年対比に対して落ち込んでいる。

<石油>

2月は元売仕切が大幅に上昇。これにより、2月中旬以降、小売価格も上昇となった。しかしながら、需要の減少に歯止めがきかず、全体的な売上減少は続いている。

<青果>

毎年1月、2月は取扱量が伸びない。積雪の影響もあり、消費者は量販店に行ってしまうので、小売店の経営は厳しい。ロスを出さないためにも取り扱いを最小限にしている。価格は高いが、昨年の倍以上の値が

つくことはなかった。来月は春彼岸もあるので、売上増加となるよう期待したい。

<電機>

一年を通し、一番厳しい月ではないだろうか。3月、4月の合展・個展に期待したい。

商店街

<福島市>

2月は、例年通り低調な月であった。「福得商品券事業」により、若干の動きはあったものの、天候不順・寒さには敵わない。下旬になり、ようやく通行者の増加傾向が見られた。毎年述べることはあるが、春が待ち遠しいところである。

<郡山市>

2月の百貨店の春の北海道物産展は今回も好評で、久しぶりに前年比を上回ることができた。特に土日の入込は良く、回転率も高かったようで、売上増につながった。しかし4月には商店街中央の今まで更地だった駐車場が立体式になり、収容台数は150台以上の駐車場がオープンする。駐車場が増えることによって、街中への来街者が今まで以上に増えるのか、あるいは既存の駐車場の売上が減ってしまうのか、どちらになるのが今後のポイントである。

<南相馬市>

商店街イベントも月例の企画のみとなっていて、通常は来街者数が少なく、静かである。4月は大きなイベントを予定しており、現在企画がほぼ固まりつつある。

<会津若松市>

冬物セール前半はよかったが、後半は伸び悩んだ。3月春物に期待したい。

<いわき市>

昨年はいわきでも大雪が2回あり、売上には大打撃であった。今年は天候には恵まれたが、売上は前年に届かなかった。業種により差はあるが、前年後半からの駆け込み消費の勢いには物販を中心に苦戦。商店街として来店数・売上増への対策もなく、来月はさらに厳しくなると思われる。

サービス業

<旅館業>

(土湯温泉)

今年は行政による宿泊支援事業がないので、2月は入込が厳しい状況であった。県外からの宿泊・日帰り観光客が2～3割戻っておらず、地元の支援が廃止になったのは痛手であった。ふくしまDCに向け、県・市の積極的、横断的な支援を期待したい。

<理容業>

どの方部も大きな変化もなく、例年通りの状況のようだ。昨年は中通りでも大雪で大変だったが、今年は昨年のような大雪もなく助かっている。年末に調髪した人たちも来店し始め、後半は少し忙しくなったが、景気のいいところとは全く違う。1月、2月の売上をどう伸ばすかが業界の課題である。3月は卒業や就職、進学等で少し活気づくと思うのでみんなで頑張ろうと話している。これから髪を切らなくも来店していただけるようなメニュー開発をしなければならない。

<廃棄物収集運搬業>

先月の報告で人員の雇用について記入したが、今月は約10名の面接を行った。雇用条件の年齢を上げたことによるとと思われる。

建設業

<建設業>

(県一円)

平成27年度県の当初予算案における土木部の予算規模は3,480億円と前年度当初を19.2%上回る過去最大規模となった。

(県南地区)

工事は官公需、民需ともに減少している。除染業務は受注残があり、売上を確保できているが、冬期間のため進捗が悪くなっている。大手ゼネコンが受注している大型建築工事においても、技能工不足などの理由により、進捗が良くない。

<管工事>

前月比で給水、排水設備申請とも増加。前年同月累計対比では、給水、排水設備申請とも減少している。

<専門工事>

昨年は2月度に大雪に見舞われたために、各地で警戒がなされていたが、昨年とは反対に低気圧が南方を通過したために大雪に見舞われなかったことは除染作業の進行にとっても幸いであった。集中復興期間も残

すところあと1年になり、地域業界の先行きに対しての不安感が増大しているように感じられる。有効求人倍率が全国4位ということだが、十分な人員が確保できている状態にはない。必要な人材の確保と将来の業界を支える人材の教育と言う点においては震災から4年を過ぎようとしている今も、何も解決していない。

運輸業

<トラック運送>

(県北地区)

燃料は平成27年1月に下値のピークとなったが、2月はそこから10円近く上昇してきた。しかし、平成26年10月の上値のピークに比べればまだ20円程度低く推移しているため、収益環境は悪化していない。

(県中地区)

下がり続けていた軽油価格が上昇に転じた。

<ハイヤータクシー>

前月同様動きが良くない状況が続いている。低調状態が続いており、厳しい状況である。

県政トピックス

2015. 4

平成27年度 福島県中小企業制度資金について ～より利用しやすいよう制度の追加・改正を行いました～

福島県では、中小企業の皆様の状況や目的に応じた各種の制度資金を準備しております。平成27年度は、より利用しやすいよう次のとおり制度の追加及び改正を行っておりますので、ぜひ御活用ください。

1 「耐震改修促進資金」の創設

旧耐震基準により建築された事業用建物を保有する県内の中小企業の方を対象とし、当該建築物の耐震診断又は耐震改修工事を行う場合に利用できる制度として、「耐震改修促進資金」を創設しました。

2 「小口零細企業資金」を「小規模企業支援資金」に変更し、金利を引き下げ

小規模事業者を対象とする「小口零細企業資金」の名称を「小規模企業支援資金」に変更するとともに、上限金利の引下げ(2.3%→2.0%)を行いました。

3 「短期保証」の資金使途に設備資金を追加

設備資金を資金使途とした利用を可能としました。短期間の設備資金借入や、設備に関する補助金受取までのつなぎ資金として御利用頂けます。

お借入の申込については、県内の取扱金融機関(銀行、信用金庫、信用組合、商工中金)に御相談ください。各制度の詳細については、下記のお問い合わせ先まで御連絡頂くか、福島県のホームページを御参照ください。

<お問い合わせ先>

福島県庁 商工労働部 経営金融課

電話：024-521-7291 FAX：024-521-7931

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/32011b/seidosikin.html>

福島県 制度資金

検索